

2018年2月21日 校長 萩野 幹夫

『自然から学ぶ子どもたち』-現地理解教育-

校長 萩野 幹夫

今、『文集 やしの実』の原稿を読んでいます。この一年の子どもたちが、運動会やチルドレンズフェスティバルの行事を通して、友達とのかかわりの中から、協力することや努力することの大切さを学んだことがわかりました。また、校外学習・宿泊学習を経験して、成長した新たな自分を見つけ、輝いている子どもの姿を読み取ることができました。さらに、保護者の一言が、子どもの励みになり、成長を促すことにつながったことも分かり、とても感動しました。

さて、2・3年生の子どもたちは、2日(金)にローガー湖に接しているフッシュチャリーステーション(養魚場)に行ってきました。魚を卵から育てている施設を丁寧に説明していただきました。普段口にしていない『魚』について深い関心をもつことができたと思います。中には、観察で捕獲した小魚等を飼育したいという子どもがいたので、持ち帰らせました。生命尊重の心を培う体験につながり、うれしい限りです。

続いて5日(月)には4・5年生がヤンゴン動物園に行ってきました。事前学習では、動物の特徴を大きさ・鳴き声・形・動き方などから説明していただきました。また、グループ単位で問題を解きながら園内を回るオリエンテーリングで、知識と実体験を結びつけることができました。

これらの活動は、ミャンマーの自然インストラクター・写真家の大西信吾先生がすべての学年の子どもに情熱溢れるご指導していただいております。深く感謝しているところです。

各分野のミャンマー人専門家を紹介していただいたおかげで、動物園・養魚場・植物園を専門的な説明により、興味深く学ぶことができたと思います。

当初は、安全・健康面でご心配いただきましたが、その対応もできうる限り行い、ヤンゴン日本人学校の特色を生かした教育課程が編成できました。保護者の皆様のご理解に感謝いたします。

今年度も、残すところあと一カ月となりました。各学年のまとめをしっかりと行い、子どもたち一人一人が新年度に向けて期待が持てるよう指導と準備を行いたいと思います。

<主な学校行事等予定>

- 2/24日(土) PTA 総会(午前) バスの会
- 3/1日(木) ダバウン満月祝日
- 3/2日(金) 「農民の日」のためお休み
- 3/10日(土) PTA「ありがとうの会」
- 3/15日(木) 卒業式 卒園式
- 3/16日(金) 修了式 離任式
- 4/18日(水) 入学説明会 10:00～
- 4/19日(木) H30 入園式 入学式 始業式 着任式

『卒園・卒業を前にして』

幼稚部パイヤ組

担任 クラーク 潤子

卒園が近づき、パイヤ組の子どもたちが大きな期待に胸を膨らませている小学校生活。「もうすぐ一年生」という言葉でいっぱいのお笑いを浮かべます。

年少の入園式から3年間をこのヤンゴンの幼稚部で過ごした子どもたちは今年度4人います。そして今、13人に増えた子どもたちがそれぞれの幼稚部生活の思い出と経験を胸に卒園を迎えます。途中退園していった子どもたちも含め、どの子どもたちも本当に個性が強いのが今年のパイヤ組でした。ヤンゴンの太陽の下でたくさん遊び、元気よく育ちました。寂しさや悔しさで涙を流したことよりは、大きな笑い声であふれていた毎日の方が強く印象に残ります。

たくさん経験を積んで、やさしく、賢く、たくましく成長することができたパイヤ組でした。小さなうちからヤンゴンで国際的刺激を受けて育った子どもたちです。これからもパスポートにたくさんスタンプを押して、世界で活躍する人に育っていくのだらうと、今から彼らの将来がとても楽しみです。

保護者の皆様、入園から幼稚部の保育活動に多大なご理解とご協力をいただきまして、どうもありがとうございました。食育の活動や園外保育のお手伝い、楽しい季節の行事の出し物など、どれも子どもたちにとって楽しく特別な思い出となりました。残り少ない卒園・修了までの日々につきましても幼稚部職員一同全力投球してまいりますので、変わらずお力添えいただきたく、どうぞよろしく願いいたします。少し早いですが、ご卒園 おめでどうございます。

小学部6年

担任 生駒 恵子

『きら・思・合い』 これは、6年生の学級目標です。4月、6年生がスタートして最初にみんな話して考えたのが、この学級目標でした。「何事もあきらめず、友だちを思いやり、下級生に頼られ、協力し合い、絆を大切に作るクラス」どれも大切に削ることができない。みんなの強い思いで頭文字だけを取ることにしました。

学級目標の達成に向けての取り組みはすぐ翌日から始まりました。朝登校するとすぐにランドセルを置いてクラス全員が1年生教室に向かいました。1年生が学校に慣れるまで、お手伝いをしようと思ったからでした。1年生一人一人に優しく寄り添って、お手伝いをするみんなは、日に日にみんなの目指す「下級生に頼られる小学部最高学年」に成長しました。

何度も挫折を繰り返して臨んだチルドレンズフェスティバルの「千本桜」と「大江戸ダンス」。全員が全力で取り組んでいない、全員が頑張らなくては意味がないという訴えから、みんなで話し合い、休み時間に全員で何度も踊り、本番当日「みんなの心を一つにしたい」という願いを叶えることができたのだと思います。チルフェスに向かう過程の様々な出来事を通して、「自分だけでなくみんなで」という気持ち生まれ、クラスが「集団」として成長したのだと感じます。

宿泊体験学習でも運動会でも、たくさん吸収し、大きな仕事も成し遂げました。「ヤンゴン日本人学校のかっこいい6年生」を至るところで目にすることができました。

でもどんな行事よりも、みんなは何気ない普通の日が本当に楽しそうでした。男子対女子でバレーボールをしたり、よく飽きないなあと思うほど百人一首をしたり。いつも通り過ごす当たり前の時間が、皆にとってかけがえのないものなのだと、いつもほほえましく見ていました。とてもいい「仲間」になりましたね。

さあ、あと数日で卒業式です。大きく成長したみんなの「きら・思・合い」が見たい。みんならしい素敵な卒業式にしましょう。

ある雑誌のコラムに、脳科学者の茂木健一郎さんの話が目に留まりました。茂木さんのお話は、本当に刺激的でいつも面白いお話が多いですが、今回特に印象に残ったことのうちの一つに「人は面と向かって話している時の方が脳は本気になる」という内容でした。インターネットとスマホのおかげで、昔より遙かに広範な情報をリアルタイムで大量に得られるようになりましたが、「面と向かう」機会を増やして、脳を本気にさせることも大切ではないだろうかと言っています。

本校の子供たちは運動会・チルフェスや日々の授業の中で、友達や異学年の子供たちと面と向かって生活することが多いです。面と向かって「君はこうだ」と言ってくれる場合もあるし、ちょっとした相手の言葉、仕草、表情に、自分の姿が反映されることもあり、互に関われば関わるほど、多少の軋轢も起こります。自分の長所や短所は、他人という鏡に映って初めてわかるものですが、残念なのは、せっきくのシグナルを見落としていることが多いということです。

私たち大人が子供の見本となるように、〈面と向かって〉語り合う機会を意識的に取り入れていただきたい、子供のハッスル大事なシグナルを見落とさないように肝に銘じたいものです。